

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 八見 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

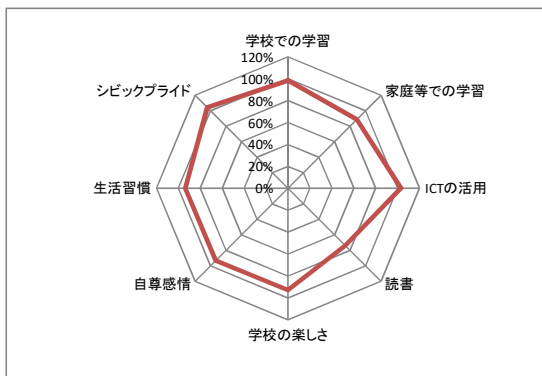
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回った。書くこと・読むことや情報についての理解、漢字を正しく書くことに課題がある。図書館利用の推進を図り、活字にふれる機会を増やし、読解力をつける。また、授業では漢字テストを行う頻度を増やす。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題 具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回った領域が多かった。特に図形の領域の正答率が低い。図形の証明については、合同な図形の証明の方法を比較しながら相似な図形の証明に結び付けるようにする。また、数と式やデータの活用領域については、公立高校の過去問等を使って、基礎学力の定着に取り組む。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題 数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題 条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる問題	
英語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回った領域が多い。特に「聞くこと」「読むこと」の領域の正答率が低い。授業中ではできる限り英語にふれる機会を増やしたり、ALTと会話したりする機会を増えるようにしていく。英文の読み取りについては、文章や説明の要約をする授業を多く取り入れ、英文の読み取り方のポイントを抑えるようにする。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる問題 社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」と回答した生徒が全国平均と比べて高かった。自分自身が地域の構成員であると自覚し、さらにまちを良い場所にしていこうとする意識が高い。 ○「授業でのPC・タブレットなどのICT機器の使用頻度」と回答した生徒が全国平均と比べて高く、タイピングの速い生徒も多い。今後はどの授業においてもICT機器を活用した授業を継続する。 ○「読書」に関する肯定的な回答の割合は低下している。本年度は図書館教育係を中心に4月の子ども読書の日や12月の北九州子ども読書の日を取り組みとして、POPづくりを実施したり、「読みりんピック」を実施したりして学校図書館の利用の促進を行った。 ○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」と回答した生徒が全国平均と比べて低かった。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○今回の調査による正答率は、全国平均を下回るものが多い。教科に対する関心を高め、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業を実現していく。また、教科担任からのアドバイスをもとめたプリントを配布するなど家庭学習の充実を図り、学習習慣の定着に努める。
○本校では、「自分の考えをまとめその考えを分かりやすく伝える力の育成」をテーマとして授業研究を行っており、引き続き、生徒の実態に合わせた魅力ある授業づくりを進めていく。
○八児タイムや学力向上の取組を通して、基礎学力の定着に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○学校からの各種通信や保護者懇談会等の様々な機会を通して、生活習慣の確立や家庭学習の習慣化が心身の成長や学力向上の大きな要因となっていることを今後も発信し続けていく。
○計画的な家庭学習の定着について、学校からは目標達成までに計画が必要であることを意識させる。定期考査前等に学習計画表を作成させ、教師からのアドバイスを行うなどよりきめ細かい指導を行う。